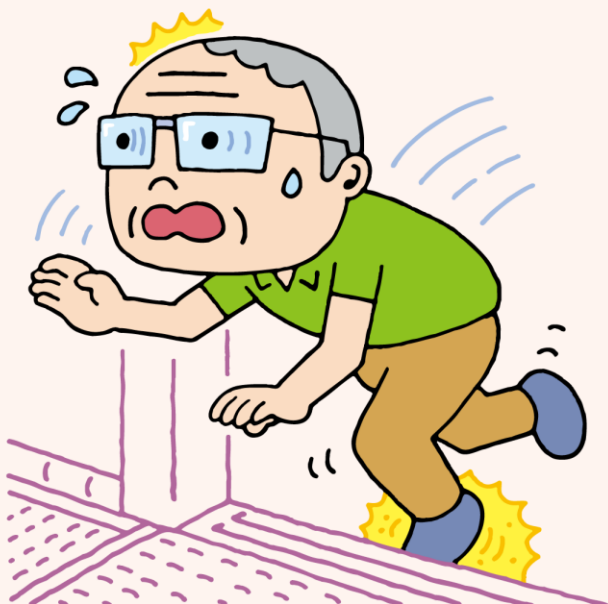


見守り
新鮮情報

眼鏡型の拡大鏡 着用したまま歩くと 危険です

事例1 父が**眼鏡型の拡大鏡**
を着用したまま**歩いた**
ところ、段差で**転倒**し、肋骨を
骨折した。

(当事者：80歳代 男性)



©Kurosaki Gen

事例2 **眼鏡型の拡大鏡**
を30分ほど使用
したところ、外した後、**目の**
焦点が合わず、吐き気を
もよおし、しばらく横に
なるほど**気分が悪く**
なった。

(当事者：60歳代 男性)

ひとこと助言



見守るくん

- 眼鏡型の拡大鏡は、手の届く程度の距離にあるものを拡大して見るための商品で、視力を矯正するものではありません。手の届かないほど離れた距離のものは明瞭に見ることができないため、着用したまま歩行すると転倒する恐れがあるのでやめましょう。
- 既製品である眼鏡型の拡大鏡は一人ひとりに合わせて作られていません。できるだけ購入前に使用感等を確認し、眼鏡を持っている場合は、眼鏡との重ね掛けも試みましょう。
- 見え方に異常が生じて気分が悪くなったり、頭痛やめまいが起きたりすることもあります。眼や見え方に異常を感じたら、使用を中止しましょう。

本文イラスト：黒崎 玄

見守り新鮮情報 第394号（2021年5月18日）発行：独立行政法人国民生活センター

米子市消費生活相談室

☎ 0859(35)6566